

福祉医療機構助成事業

家族支援に向けた スキルアップ研修会

平成21年度に実施したモデル研修の
内容を紹介します。

22年度は、この研修の実施を支援します。

ご紹介

研修の目的

在宅で介護する家族へのストレスに
未然に気づき支援するための技術を
身につける研修

研修機会の少ない在宅サービス職員
への1日で実施できる効果的
研修機会を提供する

研修対象

認知症の方を在宅で介護する家族に
関わる機会の多い事業所職員の方

- 例
- デイサービス ● テイケア
 - 小規模多機能ホーム等の通所サービス
 - 地域包括支援センター
 - 居宅介護支援事業所
 - 介護支援業務に携わる方
 - 家族の会等で相談業務に従事する方等

在宅で介護をする家族を支援するサービスが不足
しています。

在宅の介護を支えていくためには、介護をする家
族と、在宅支援に関わる事業所のスタッフや相談業
務にあたる人との良好な関係を保つことが望まれま
す。まずは、介護をする家族に認知症を理解してもら
うために家族に関わるスタッフが適切に認知症を理
解し、適切な助言ができる能力が必要になります。

認知症介護研究・研修仙台センターでは、在宅に
最も近い事業所の方により多く認知症と家族支援の
専門的知識を持ってもらい、地域で介護をする家族
を支援するためのシステム作りを行うことを目的に、
この研修を普及することを目指しています。

家族支援に向けた スキルアップ研修開催までの経緯

厚生労働省の調査によると、虐待の被害
者である高齢者の約7割が、多くの場合なん
らかの居宅サービスを利用していることが
明らかになっています。また、精神的サポート
を必要としている介護家族は、自ら相談する
ことが難しい場合も多く、本当に必要な人に
支援が行き届いていないことが課題でした。

送迎や訪問などで、介護家族と日常的に
接する機会の多い専門職の方々は、まさに
在宅における虐待防止の重要なキーマンと
言えるでしょう。

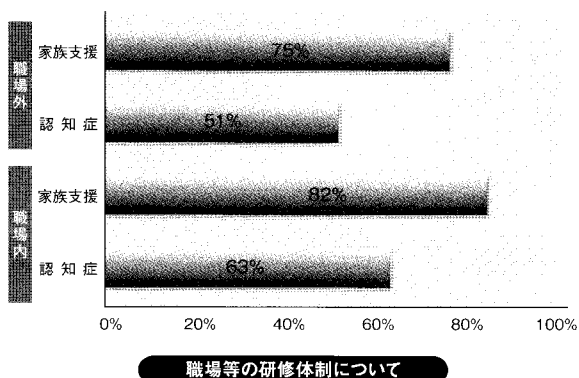
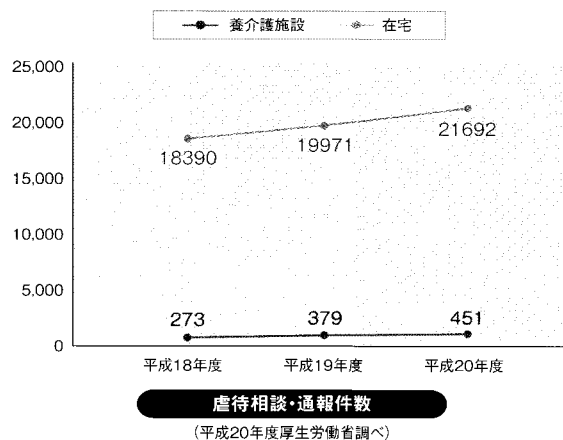
この研修会を通して、一人でも多くの方に
介護家族を支える視点や家族の声に耳を傾
けることの重要性を理解していただけたらと
考え、開催にいたりました。

在宅で介護をする家族への支援の必要性

1 在宅介護の危機!

- 1 平成20年度に相談・通報のあった件数**21,692件**
- 2 被虐待高齢者の**75%以上**が要介護認定済み
- 3 虐待者の**86%以上**が同居
- 4 虐待の発見者や相談通報者は「介護支援専門員・介護保険事業所職員」が**43.8%**

在宅における虐待は増加し、その多くは介護サービスを利用しているにもかかわらず、同居している家族が虐待へと至ってしまっています。そして、こうした虐待を発見し通報した人は、ケアマネジャーや在宅サービス職員が圧倒的に多くなっています。こうした実態から、在宅サービスにかかわるスタッフやケアマネジャーが虐待発生前に危険性を予知し、効果的な介入を行う能力が求められています。



2 家族を支えるための学習機会が不足しています

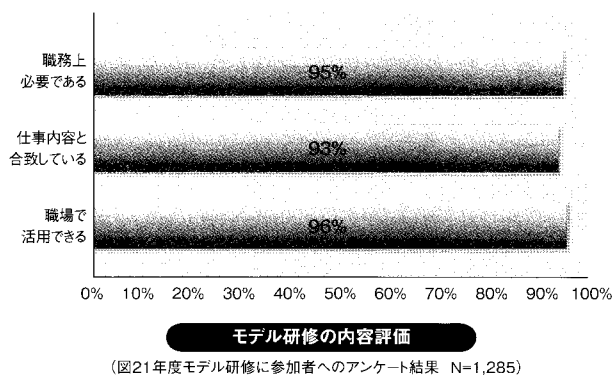
在宅介護に携わる職員は、研修機会が少ない傾向にあります。特に、小規模事業所においては、人員や雇用形態によって職員を長期期間にわたる外部研修に出す機会を取りづらくなっています。

その結果、図のように多くの職員が研修に対して不十分と感じており、特に家族支援の最前線にいるにもかかわらずこのような内容の研修は極端に少ないことが分かります。

3 全国11か所でのモデル研修を実施しました

仙台センターでは、在宅介護を支えていく上で大きな役割をもつ在宅サービスに従事するスタッフを対象として平成20年度実態調査を行いました。そこで明らかになった職員の課題等を反映させるかたちで、平成21年度全国11か所において「家族支援に向けたスキルアップ研修会」モデル研修を実施しました。

モデル研修には、3808名の申込があり、抽選にて1302名の方が受講しました。



研修のカリキュラム

研修のねらい 未然に家族のストレスを察知し緩和する技術を身につける

9:30

10:50

「認知症の理解」～認知症介護に関する悩みや質問、苦情に適切に応える～

- 認知症介護の歴史とこれからのケア
- 認知症の人の心理(映像教材1)
- 認知症の原因疾患とBPSDの対応と理解

演習1 「私が認知症になったら…」

11:00

12:20

「在宅介護の実態と介護家族の理解」～事例映像を通して家族本人の声から理解する～

- 在宅介護の実態
- 介護家族のストレスと負担感(映像教材2)

演習2 「家族に認知症を理解できるように説明してみよう」

13:20

16:30

「家族支援と具体的対応方法」～家族のサインに気づき、家族の思いを引き出す～

- 送迎時や短い時間で家族に効果的に介入する方法
- ホッとメッセージ、ハッとメッセージを伝える

演習3 事例映像を見ての気づき(映像教材3)

演習4 「60秒コミュニケーション」

演習5 「家族の悩みにどう対応しますか」

研修に使用する教材

映像教材を活用した演習

映像教材は、認知症の方ご本人やご家族に「認知症になってもできること」「うれしかったひと言」「介護のストレスについて」などをお話いただいています。映像教材を用いた演習をたくさん取り入れています。



認知症の理解(映像教材1)



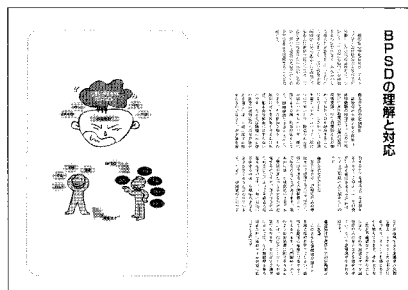
家族の理解(映像教材2)



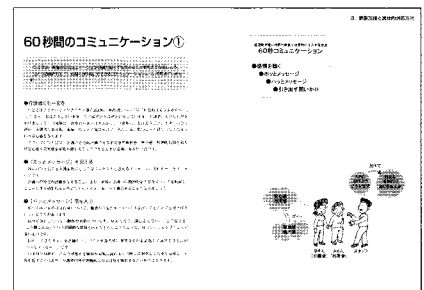
事例検討(映像教材3)

テキストと 講師用テキストは対応

受講生が使用する研修テキストと講師用テキストは対応しています。また、パワーポイントの講義資料も作成しました。



▲研修テキスト



▲講師用テキスト

こんな方法で活用することもできます

本研修会は、通常カリキュラムの1日研修で行う他に、以下のような活用例も可能です。



半日研修

認知症の理解は振り返り程度の内容にとどめることで全体の時間を短縮します。すでに、認知症の理解について学んでいる場合に有効です。対象は、在宅で介護をする家族と接する機会の多い方全てです。



施設等職場内研修などで活用

施設等の職場内研修や、時間が十分に取ることが難しく分割してすべての内容を学ぼうとするパターンです。それぞれの科目が少し短くなるので、演習の発表者を少なくしたり、講義時間を短縮することで実施可能です。



実践研修等での活用

各都道府県・市ですすでに行われている認知症介護実践研修の家族支援相当科目の中に本研修の内容を活用する方法です。在宅で介護する家族だけではなく、施設を利用する家族への具体的な対応方法に内容を変更して活用することが可能です。

認知症介護実践者研修

「家族の理解・高齢者との関係の理解」【90分】→「在宅介護の実態と介護家族の理解」を含める

認知症介護実践リーダー研修

「高齢者支援のための家族支援の方策」【180分】→「家族支援と具体的対応方法」を含める

平成21年度、大分県では「認知症地域支援体制構築等推進事業」の継続事業として「認知症にやさしいまちづくり事業」を展開しており、その中で「認知症の家族支援者養成事業」として、本研修プログラムを実施しています。

実際の研修実施例

岡山県では、認知症介護指導者が認知症介護実践リーダー研修において、本プログラムの講義・演習内容を実施しております。また、東京都でも認知症介護実践リーダー研修での活用も検討しています。

認知症の人を介護する家族を広く支援する体制を作ることを目的として、平成22年度は、都道府県または、都道府県から委託を受けた団体にモデル事業として研修が実施できるように計画しています。また、継続的に地域でこうした研修が実施できるよう研修講師については、認知症介護指導者に対して平成22年度6～7月ごろに講師養成研修会を全国各地で開催する予定です。テキスト、演習シート等は参加者に無料配布できるよう計画しています。

問い合わせ・
申し込み先



認知症介護研究・研修仙台センター (矢吹・堀籠)

〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1 TEL・FAX 022-303-7556